

今回は、半布里文化遺産活用協議会のみなさんとの合同調査の報告です。

◇ 富加町の文化遺産活用協議会のみなさんと一緒に、文化財をめぐりました！

日 程： 2020年10月25日(日) 8:30~16:00

場 所： 富加町内(加治田城、清水寺、龍福寺、堂洞城、夕田茶白山古墳等)

参加者： 地域研究部の生徒5名、半布里文化遺産活用協議会の方々11名

案 内： 島田崇正さん(富加町教育委員会文化財専門官)

◇ 当日の様子

富加町には、旧石器時代の恵日山(えびやま)遺跡や中世の山城、寺院や仏像など、多くの文化財があります。そうした貴重な文化遺産をまちづくりに生かそうと活動している半布里(はぶり)文化遺産活用協議会のみなさんとともに、一日行程でフィールドワークを行いました。案内役は、昨年度に引き続き、富加町教育委員会文化財専門官の島田崇正さんです。概要は以下の通りです。

<加治田城>

郷土資料館駐車場に集合。清水谷川公園から加治田城に登城。加治田城は織田信長による東美濃攻略戦に際し、織田勢に味方した佐藤一族の城。山の各所には堀切、竪堀、虎口といった中世城郭に多く見られる防備のための遺構が見られた。山頂からは岐阜城はもちろんのこと、名古屋のビル街までが見えた(右写真)。



<清水寺本堂>

臨済宗清水寺(きよみずでら)を訪れ、井戸順治さんから説明を受けた。寺伝によると坂上田村麻呂により建立されたという。かつては密教寺院であり、本尊は平安期の木造十一面観世音菩薩坐像である。秘仏であるが特別許可をいただき拝観した(右写真)。定朝様式ではあるが、日本史教科書に登場する通常の寄木造ではなく一木造であった。拝観後は庫裏をお借りして昼食をとる。井戸さんや協議会のみなさんから、お茶やお菓子でもてなしていただいた。



<龍福寺>

臨済宗龍福寺(りょうふくじ)を訪れ、佐藤紀伊守肖像画や古文書類を見せていただいた。龍福寺は佐藤氏の菩提寺であり、肖像画のほか、室町期から江戸期にかけての古文書類が保管されている。書状や所領安堵状、位牌、木像などの貴重な文化財が今日まできちんと保管されていることに感銘を受けた(右写真)。

今回、清水寺や龍福寺で、私たちのために貴重な文化財を公開していただいたことに、心より感謝申し上げます。



<堂洞城・夕田茶白山古墳>

堂洞城は、織田勢を迎え撃った岸一族の居城である。戦の顛末については、信長の一代記である『信長公記』に詳しい。『信長公記』には、信長自らが「高き塚」にて陣頭指揮をとったと記されているが、島田さんはその「高き塚」を、堂洞城のすぐ近くにある夕田茶白山古墳のことではないかと推測する（右写真、後円部の墳長頂部に立つ）。この古墳は小高い丘に築かれた全長40mほどの前方後円墳で、3世紀前半に築かれたと考えられている。まさに卑弥呼の活躍した時代に築かれたこの古墳の上に、信長がそうとは知らず陣をしいたと聞き、歴史のめぐりあわせの面白さを感じた。



参加者のみなさんの中には、関高の同窓生や保護者の方もいらっやって、歴史の話や学校生活の話、文化財の保護や活用の話など、会話もはずみました。富加町の恵まれた文化遺産をまちづくりにどう生かしたらよいか。地域研究部も活動の輪に加わり、富加町内の歴史探究やまちづくり提案を進めていく予定です。

今般のコロナ禍で中止のやむなきにいたりましたが、今年の3月21・22日に実施予定であった富加町主催の「夕雲の城フェス」において、本校地域研究部も発表する予定でした。研究者の方々とご一緒できる本格的な戦国シンポジウムであっただけに残念ですが、富加町のみなさんとは、今回のようなつながりをもちながら今後も継続的に研究を続け、文化財を生かしたまちづくりに参加していく予定です。

